

栃木県看護連盟会員研修会 アンケート集計結果(アンケート回収数:75枚)

開催日時 2025年6月23日(月) 12:50～14:00

場所 コンセーレ 大ホール

内容 「看護の未来と看護代表議員の果たす役割」

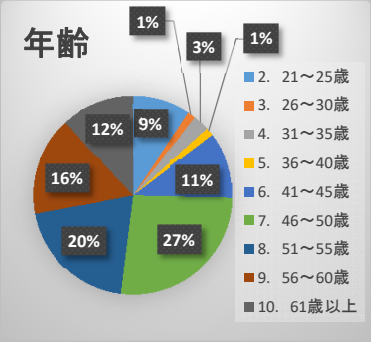
石田まさひろ参議院議員政策秘書 五反分 正彦様

項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
1.年齢	7	9	9	10	9	9	6	10	10	7	8	2	2	9	9	7	7	6	7	7	7	7	6	7	6	7	8	2	7	2	10	9	4	3	6	8	8	10	7	8	7	8	9	10	6	8	2	8	7	9
2.経験年数	6	8	8	9	8	6	5	9	9	6	7	1	1	8			6	5	6	8	5	3	5	5	5	5	4	1	5	1	9	8	3	1	5	5	7	9	6	7	5	7	8	8	5	7	1	7	6	8
3.会員年数	6	8	8	8	8	5	2	9	9	5	1	1	1	8	7	6	2	5	4	8	1	3	2	5	4	4	4	1	5	1	9	8	3	1	5	1	7	9	6	7	5	7	1	8	5	7	1	6	4	8
4.性別	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2			
5.参加方法	1	1	2	2	2	2	1	2	2	2	2	1	1	1	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	2	2	1	3	1	1	2	2	1	1	1	1	2	2	2	2	1	1	2	2
6.満足度	10	9	10	10	10	10	10	10	9	10	8	3	7	1	9	9	10	10	9	10	7	8	10	7		9	8	9	10	8	10	10	10	10	8	9	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	
看護連盟の活動	理解	4	4	4	4	4	4	3	4	4	4	4	3	4	4	3	3	4	4	3	4	3	3	4	3	4	4	4	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
	政治力	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	4	4	3	4	4	4	3	4	4	4	4	3	4	4	4	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
	投票行動	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	4	4	4	4	4	3	4	3	4	4	4	4	4	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

項目		51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	平均	
1.年齢		8	9	8	10	9	7	8	5	8	8	8	7	7	10	6	7	6	4	9	2	2	8	10	7	7	7.44	
2.経験年数		5	8	7	9	7	6	7	3	7	7	7	6	6	7	5	5	5	5	7	1	1	7	5	6	6	5.78	
3.会員年数		5	8	5	9	7	2	7	4	7	7	7	6	3	3	5	5	5	5	5	1	1	1	8	6	6	4.78	
4.性別		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1		
5.参加方法		1	2	1		2	1	2	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	2	2	1	1		
6.満足度			10	10	10	10	10	8	7	9	10	7	9	10	8	1	10	10	10	10	10	10	10	9	7	10	9.78	
看護連盟の活動	理解	4	4	4	4	4	4	4	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	4	3.75	
	政治力	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	4	3.88	
	投票行動	4	4	4	4	4	4	4	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	4	3.75	

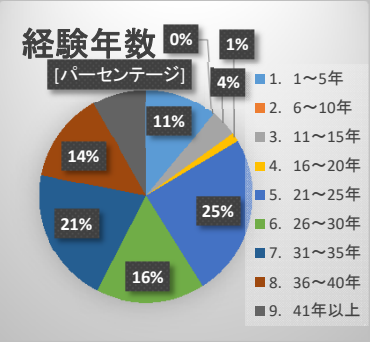
1.年齢

1. 20歳以下	0
2. 21～25歳	7
3. 26～30歳	1
4. 31～35歳	2
5. 36～40歳	1
6. 41～45歳	8
7. 46～50歳	20
8. 51～55歳	15
9. 56～60歳	12
10. 61歳以上	9
合計	75



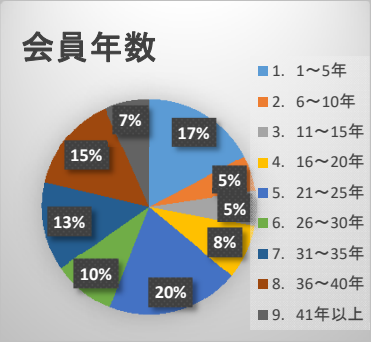
2.経験年数

1. 1～5年	8
2. 6～10年	0
3. 11～15年	3
4. 16～20年	1
5. 21～25年	18
6. 26～30年	12
7. 31～35年	15
8. 36～40年	10
9. 41年以上	6
未記入	2
合計	75



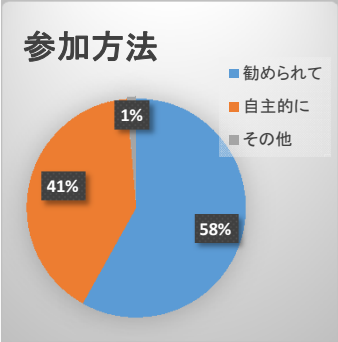
3.会員年数

1. 1～5年	13
2. 6～10年	4
3. 11～15年	4
4. 16～20年	6
5. 21～25年	15
6. 26～30年	7
7. 31～35年	10
8. 36～40年	11
9. 41年以上	5
未記入	
合計	75



5.参加方法

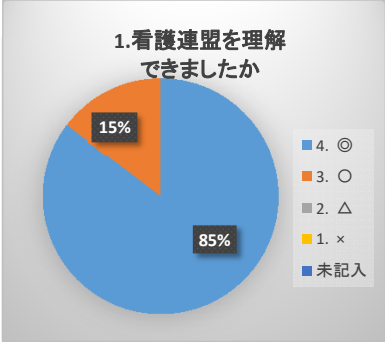
勧められて	43
自主的に	30
その他	1
未記入	1
合計	75



8.看護連盟の活動に関して

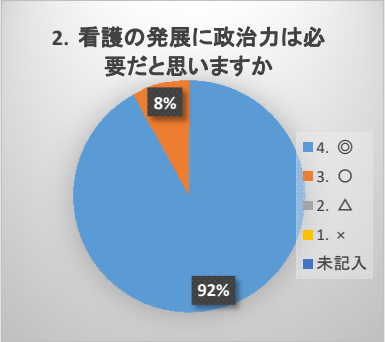
①看護連盟を理解できましたか

4. ◎	64
3. ○	11
2. △	
1. ×	
未記入	
合計	75



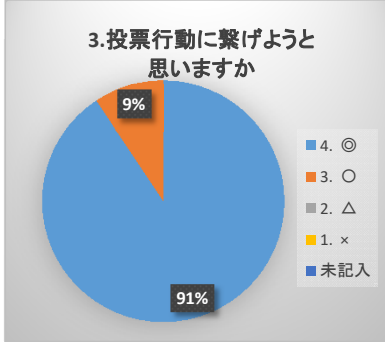
②看護の発展に政治力は必要だと思いますか

4. ◎	69
3. ○	6
2. △	
1. ×	
未記入	
合計	75



③投票行動に繋げようと思いますか

4. ◎	68
3. ○	7
2. △	
1. ×	
未記入	
合計	75



6.感想

- ・ 分かりやすかったです。
- ・ 石田まさひろさんの良さがとても伝わりました。
- ・ 新たな内容を聴くことができました。
- ・ 石田さんの活動などが知れてよかったです。
- ・ HPとして後押ししている候補者がいるためHP上全面的に投票を後押しすることが難しい。が、スタッフへ2名の候補者の期日前投票をお願いしていきます。
- ・ 石田まさひろさんのお話とても勉強になりました。頑張ってくださいたいです。
- ・ 看護代表議員がいることで自分たちの処遇改善がなされていることを知ることができた。
- ・ 石田まさひろさんの考えや人柄を知ることができました。
- ・ 分かりやすかった。
- ・ 講演を聴いて非常に感銘を受けました。
- ・ 石田まさひろ議員の良さが分かり、自信をもって応援したいと思った。
- ・ 力をもらいました。もう少し頑張ります。
- ・ 楽しく聞かせていただきました。
- ・ 病院の推薦で決まりましたが参加して楽しかったです。
- ・ 大変良かったです。
- ・ 石田さん応援しています。
- ・ 看護師という職種を長く続けるためにも選挙に行こうと思いました。
- ・ 7/20の選挙、期日前投票の必要性、また石田まさひろ先生が当選することで私達看護師の処遇改善につながるためぜひ応援したい。
- ・ 熱気を感じ、自らも応援したいと思いました。
- ・ このような研修会に参加することで看護連盟の具体的な活動内容を知ることができ現場の声を伝えることも大切だと感じた。
- ・ 国政に送る必要性がよく分かった。
- ・ 看護の力こそが日本を元気にする!!すてきな言葉です。
- ・ 時間が足りない。もっと話を聞きたかった。
- ・ 看護連盟の働き、重要性が学べました。
- ・ 学びになりました。
- ・ 石田議員の働き、人柄をよく知ることができました。
- ・ 楽しかったです。ありがとうございました。
- ・ とても理解が深まった。
- ・ 石田さんの熱い思いをHPに届けたいと思います。
- ・ 具体的により石田先生のひとが分かりました。
- ・ 連盟の研修に参加したことがなかったので参加しました。参加できてよかったです。
- ・ 石田議員の取り組みや考えを直接聞けたことで支援しようと強く思いました。
- ・ 石田さんにお会いできてよかったです。
- ・ AMの時間がかかりすぎて困った。
- ・ 時間通りいかない。
- ・ 時間が過ぎてしまった。
- ・ がかいのがどたどたるさい。

7.希望研修

- ・ 何回聞いても五反分さんのお話は分かりやすいです。なぜ投票が重要なのかぜひ選挙の年以外でも研修の場があるといいなと思いました。

8.その他、ご意見

- ・ がんばるしかないですね!!
- ・ 3期目!!必ず!!
- ・ 私は現場の看護師として日々命と向き合いながら業務にあたっています。その中で、現行の診療報酬制度における身体拘束への減算評価はあまりに実情と乖離しており“改悪”と言わざるを得ません。身体拘束は推奨されるべきものではないと理解しています。ですが現場には「拘束せず」に転倒→骨折→頭部外傷→脳出血→死亡という最悪のケースもあります。その中で、せんもうや認知機能の低下した患者が夜間に無断離床しないよう、私たちは苦渋の決断で抑制を行っているのです。それを一律に減算対象とすることは、「命を守る行為にペナルティを課す」という矛盾したメッセージに他なりません。しかも、制度改定を担う立場の方々や看護団体の総会に出席しても、現場で夜勤や急変対応を行っていない管理職が多く、「現場の声」がまったく届いていない印象を受けます。患者を守るために、現場では毎日命がけで判断し行動しそして記録しています。その努力が書類上のチェック体制や形式的な「倫理委員会」の判断だけで評価されるのは正直言って現場への冒涜だとも感じています。制度において人権が大切なのは当然です。ですが、「命の安全」と「人権尊重」は対立するものではなく共に守られるべきであるはずです。そのためには、
 - ▶現場の判断を尊重する柔軟な制度設計
 - ▶個別ケースに応じた評価の導入
 - ▶転倒事故に至る前の「予防拘束」に対する例外的措置など、現場と制度が一緒に歩める仕組みが必要だと強く感じます。今回この場を借りて、現場で働くひとりの看護師として「制度に殺される看護」を止めてほしい。命を守ることが罪にされないようにしてほしい。そんな思いで意見を述べさせていただきます。